

平成22年度自己評価表

小松原高等学校

目指す学校像 (教育目標)		1 密度の濃い授業展開により、個々の生徒の学力を伸ばす。	4 規範意識や道徳心を培い、基本的生活習慣を身に付けさせる。			
		2 個に応じたきめ細かな学習指導により、基礎学力の定着を図る。	5 生徒の自主的活動を育成・支援し、体育・文化活動の活性化を図る。			
		3 生徒一人ひとりの進路希望の実現を目指す。	6 家庭・地域と連携を図り、地域社会の支持を得る。			
重点項目		重点目標		達成状況	次年度への課題・改善策	学校関係者評価委員会の 要望・意見
教務	1 教科研究の推進、授業力の向上	教科担当者同士の研修・連携を推進して、学習指導方法を工夫・改善し、わかりやすい授業を通して生徒に学ぶ喜びを体得させるべく、授業力を向上する。		B	年度始めに年間の目標・シラバスを作成するとともに、毎学期ごとに綿密な授業計画を作成し、それに基づき、生徒の能力を最大限に引き出す授業を行う。 授業終了後に、授業点検を行い、より一層の授業改善に努める。	1 授業計画の充実・明示を行うべきである。 2 授業アンケートの結果が迅速に授業改善に役立つようにしてもらいたい。 3 大学進学実績の資料は充実しているが、専門学校進学や就職の結果資料が不十分に思う。
	2 学習指導方法の工夫・改善	習熟度別授業を工夫・改善し、諸問題の検討作業を学期ごとに行う。		B		
	3 学力不振生徒への丁寧な指導	個別指導・課外指導を通して、生徒に学習の習慣性と意欲を持たせる。		B		
	4 授業秩序の確立徹底	教科指導を通じた生徒指導に努める。		B		
	5 課外授業の体系化	授業カリキュラムと大学進学対策特別講座の体系化を図り、生徒の学力向上を図るとともに、成績不振者への課外指導を体系化する。		B		
進路指導	6 実践的かつ効果的な進路指導	生徒一人ひとりの学力・能力や適正に基づいた計画的な進路指導を実践する。		A	生徒・保護者の進路意識の高揚に努め、ランクアップを目指した進路指導体制を確立する。	4 報恩祭の活性化を図るべきである。 5 部活動を活発にして、生徒間の友情や愛校心を培ってほしい。 また、部活動の活性化を学校運営の重要な戦略と捉えるべきではないかと思う。
生徒指導	7 基本的生活習慣の確立	定期的な検査を実施し、服装・頭髪の指導を図るとともに、規範意識を持たせる。		B	挨拶・言葉遣いなどケジメのある生活の定着を図る。 長期欠席・不登校生徒への対応を特別支援教育委員会を中心に組織的に取り組む。 クラブ活動への生徒の参加率を高め、報恩祭をはじめとする。 登校時に限らず、下校時においても教職員の立哨指導を充実させる。	6 制服の見直しを検討して欲しい。 7 地域貢献活動は評価できる。さらにその後の美化指導に努めてもらいたい。 8 ホームページの更新が遅れている。スピーディな更新を望む。 9 学校自己評価の評価指標を明確にするべきである。
		報告・連絡・相談を密にすることにより、長期欠席・不登校生徒への対応を学校全体で取り組む。		B		
	8 部活動、諸行事の活性化	報恩祭・体育祭などの諸行事や、クラブ活動の活性化により、生徒の自主性・協調性・責任感及び愛校心を育成する。		B		
	9 公共心の育成校	交通ルールを遵守させ、通学路や駅でのマナーの向上を図る。		B		
校務	10 校内美化の徹底	生徒・教職員が一体となって校内美化に取り組み、施設・備品のメンテナンスを速やかに行う。		B	美化委員会活動の活性化を図るとともに教員が率先して校内美化に取り組み、校内美化安全の定期的な点検体制を確立する。 また、緊急時に備え、防災マニュアルを再点検し、非常食等の校内備蓄を図る。	
	11 保護者・地域との連携の強化	地域貢献活動を推進する。		A	活動を地域に積極的にアピールする。	
計画的、段階的な保護者面談を実施する。		B	ホームページを充実・活用することにより教育活動を積極的にアピールすし、広報活動にも効果的に連動させる。			
広報	12 広報活動の充実	積極的な募集・広報活動の充実を図り、募集定員の充足を図る。		A	次年度入試に向けても、更に積極的・計画的な募集広報活動を行い、安定した生徒募を目指す。	

A. 大変良くできた

B. 良くできた

C. 普通

D. やや不十分

E. 不十分